

往
生
記

〈凡例〉

- (一) 本漢文は、林彦明校訂『昭和新訂 三卷七書 全』（第四版、昭和十八年、総本山専修道場）を底本とした。
- (二) 漢字表記は、底本に使用されている文字を尊重したが、古・略・異体字などについては、通行の字体に改めた。
- (三) 返り点、送りがな、ルビの表記も、底本の体裁をできるだけとどめた。しかし、底本上の
剝脱の誤りなどは適宜改めた。

難遂往生機

就_テ此_ニ有_リ
其_ノ十_三

源 空 撰

一 常_ニ勇_ニ猛_ニ精_ニ進_ニ念佛_ノ功_ト相_ト積_ト雖_モ依_テ憍_ニ慢_ノ心_ニ臨_ノ終_ノ之_ノ時_ニ爲_レ魔_ノ令_レ得_セ便_リ人_ニ

二 有_ニ道_ニ心_ニ有_ニ誠_ニ心_ニ日_ニ夜_ニ念佛_ノ其_ノ德_ト勝_ル他_ニ故_ニ諸_ノ人_ニ歸_ニ依_ス之_ニ然_ル間_ト於_テ布_ニ施_ニ

生_{スル}貪_ム人_ヲ

三 雖_レ有_ニ念_ニ佛_ノ之_ノ功_ト不_レ厭_ニ信_ニ施_ノ之_ノ故_ニ其_ノ罪_ト漸_々相_ト重_リ最_ニ後_ニ難_キ住_ニ正_ニ念_ニ人_ニ

四 厭_ニ離_ノ之_ノ心_ニ雖_モ強_シ欣_シ求_ム之_ノ思_ト甚_ク弱_キ人_ニ

五 信_ニ心_ニ不_レ深_ク若_ク存_キ若_ク亡_キ人_ニ

六 信_ニ心_ニ不_レ一_ニ不_ニ決_セ定_セ人_ニ

七 信_ニ心_ニ不_レ相_ト續_セ有_ニ間_ト斷_ル人_ニ

八 常_ニ生_{スル}疑_ニ煩_ニ惱_ム人_ニ

九好近雜緣人

十縱雖得理偏執難改人

十一平生雖欣求極樂由內心不調臨終狂亂人

十二臨終之時忽然遇惡知識人

十三見往生淨土教橫住僻見人

往生障在四

疑心 懈怠 自力 高慢

往生機在四

信心 精進 他力 卑下

種種念佛往生機

第一智行兼備念佛往生機

就此其有三

一顯教修行並念佛往生人

二密教修行竝念佛往生人

三改本所修顯密行而歸念佛往生人

第二義解念佛往生人就此其有三

一偏以善導和尚解釋爲指南而捨雜行歸正行嫌雜修守專修不失義理者信知彌陀本願之旨念佛往生人

二不限善導一師曇鸞道綽懷感迦才等和漢兩朝人師等解釋中任心所引隨信所發念佛往生人

三以教他爲往生業念佛往生人

第三持戒念佛往生機就此其有二

一勇猛強盛持戒念佛往生人

二持戒雖爲本其身不堪勇進故行儀緩緩然恐破戒罪常懺悔念佛往生人猶可攝持戒具機也

第四破戒念佛往生機 就此其

一戒不可破罪不可造心雖住此思身不堪其器之故乍恐犯之乍歎造之深悲此事無他無餘仰稱名功用馮本願威力常恆不變念佛往生人

二持戒持律非分非有爲如此衆生法藏比丘之五劫思惟所發念佛往生本願也全不可願我身善惡只以稱名欲預來迎以本願力欲往生之人

第五愚鈍念佛往生機 就此其

一聞善知識教一向生信不辨威儀法則不論行住坐臥日夜念佛即久積其功往生人

二雖不學聖教天性正直自然有慈悲憐人念佛往生人
三天性慳貪雖無行施好供養 佛像經卷稱名念佛往生人

四年來爲他無慈爲物無悲好誹謗他人吐無益無利之言不
 致念佛勤臨命終時或自發心或依他勸發信心念佛往生人
 五心雖無凶身雖無惡二世之事無所思慮名利之事無所染著
 徒送迎日夜空送一生者臨終忽然念佛往生人
 六求名聞求利養雖趨朝市係念佛極樂當隙稱名往生人
 七好靈地結緣念佛往生人
 八勸進修善爲本念佛往生人
 九聽聞爲本念佛往生人
 十建立塔寺圖造佛菩薩像念佛往生人
 十一獨行念佛往生人
 十二共行念佛往生人
 十三好行別時念佛往生人

就此其
 有五

一 誓^{ニハ}盡^テ形^ニ不^レ臥^{シテ}往^{スル}生^人

二 每^{ニハ}年^ニ或^ハ百^ニ日^ハ九^ニ十^ニ日^ハ行^{シテ}往^{スル}生^人

三 每^{ニハ}月^ニ行^{シテ}往^{スル}生^人

四 每^{ニハ}日^ニ行^{シテ}臨^ニ終^ニ講^ニ式^ヲ往^{スル}生^人

五 每^{ニハ}時^ニ十^ニ二^ニ光^ニ禮^{シテ}往^{スル}生^人

十四 在^{ニハ}閑^ニ室^ニ念^{シテ}佛^ニ往^{スル}生^人

十五 向^{ニハ}形^ニ像^ニ念^{シテ}佛^ニ往^{スル}生^人

十六 雖^{ニハ}不^レ向^{ニハ}形^ニ像^ニ遙^ニ向^テ西^ニ稱^{シテ}名^ニ往^{スル}生^人

末代の衆生を往生極樂の機にあて、見るに行少とても不^レ可^レ疑^レ一念十念可^レ足^リ罪人なりとても不^レ可^レ疑^レ罪根深きをも不^レ嫌^{スト}云へり時下りたればとても不^レ可^レ疑^フ法滅已後衆生尙可^ニ往^{スル}生^況

近來をや我身惡しとても不可疑自身是煩惱具せる凡夫也と云へり十方に淨土多れとも西方を欣ネカフハ十惡五逆の衆生々るゝカ故也諸佛の中に彌陀に歸し奉るは三念五念に至るまで自來りて迎給故に諸行の中に念佛を用は彼佛の本願なるか故に今彌陀の本願に乗して往生しなむには願として成せずと云事不可有本願に乗する事は只信心の深によるへし難受人身を受て難遇本願に遇て難發道心を發て難離輪廻の里を離れて難生淨土に往生せむ事は悦か中の喜ひ也罪は十惡五逆の者も猶を生ると信して少罪をも犯さしと可思罪人尙生る何に況善人乎行は一念十念不空シカラと信して無間に修すへし一念尙生る何況や多念をや阿彌陀佛は不取正覺の詞を成就して現に彼國に坐せは定て命終時イシテフハシントキには來迎し給はんすらん釋

尊は善哉我か教に隨ひて生死を離なんと知見し給ふらん六
方の諸佛は悦はしき哉我等か證誠を信して不退の淨土に生
せんと喜給らん天に仰き地に伏して可_レ悦_レ今_レ度_レ彌陀の本願に
逢る事を行住坐臥にも可_レ報かの佛恩を馮_レても尙可_レ馮_レは乃至
十念の詞信しても尙可_レ信は必得往生の文也

酉 譽 花押

(異筆) 一考 宣 譽 花押